福岡県神道青年会
ぬぼこ
第102号

会長挨拶

福岡県神道青年会　会長　花田　武

謹んで聖寿の万歳と皇室の弥栄を言祝ぎ申し上げます。

去る、十月二日、第六十二回神宮式年遷宮遷御の儀が皇大神宮で執り行われ、天皇陛下より差遣された手塚英臣掌典長および黒田清子臨時神宮祭主、鷹司尚武神宮大宮司を始め、百数十人に及ぶ祭員でご奉仕され、皇族代表として秋篠宮殿下が参列され、安倍晋三内閣総理大臣など約三千人の関係者らが浄闇のなかで見守られる中、厳粛に執り行われましたことは、洵に慶賀の極みに存じます。

扨、二月二十七日・八仙閣に於きまして、福岡県神道青年会六十周年記念式典・同講演・祝賀会を開催し、ご来賓として、福岡県神社庁副庁長波多野盾夫様、同じく副庁長竹間宗麿様、神道青年全国協議会会長南坊城光興様、神道青年九州地区協議会副会長神大和男様のご臨席を賜り、又、福岡県内各宮司様を始め、全国・九州の同志の皆様、そして会員の皆様のご出席を戴き、盛会裡に終えることが出来ました。

これも偏に当会の諸活動に常にご理解とご協力、ご支援を頂戴しております、先輩諸兄のお力添えの賜と深く感謝申し上げる次第でございます。

この一年を振り返ってみますと、創立六十周年記念諸行事や東日本大震災に関わる研修・事業、神宮式年遷宮関係行事等、大変充実した有意義な一年であったと感じております。

平成二十三年三月十一日に未曽有の大災害が発生してより三年が経過する事に合わせ、東日本大震災をテーマに掲げ、研修会では現地の生の声を聞いて報道では知る事の出来ない現状を学び、事業展開としては、我々の本分でもある「祈り」を通して復興支援活動を模索し続け、福岡からまた九州から復興への祈りを捧げ、撤下米を県下に広く頒布し、一人でも多くの方々が東北への思いを忘れることなく、其々が行える支援を再考する気運が高まるよう企画し、図らずもJA福島中央会・JA福岡中央会様より全てのお米をご奉納賜り、県内全本務神社並びに神道青年九州地区協議会各県に送ることが出来ました。日本国で起きた災害に日本国民が手を差し伸べ、手を携えて助け合う心をこれからも我々神職は忘れることなく、それが、畏くも「国民一人ひとりが、被災した各地域の上にこれからも長く心を寄せ、被災者と共にそれぞれの地域の復興の道のりを見守り続けていくことを心より願っています」とのお言葉を仰せになられました今上陛下の大御心に沿うものと信じます。

創立六十周年・東日本大震災復興両諸事業で会員其々「祈り」を改めて感じた事と思います。この経験を共有し後輩たちへ継承してまいりましょう。

そして、今年平成二十六年度には九州地区当番県が回って参ります。

創立六十周年のサブテーマに掲げた「新たなる一歩へ」の一年目に当番県が廻って来たのも当県の運命を感じます。この一歩目を今一度創立当初の青年神職に思いを馳せ、福岡県神道青年会が進むべき道程を図り、先輩諸兄が築き上げてこられた当会をより高みに進めるべく努力を重ね、青年神職らしく皆様をお迎え致したく存じます。

結びに、任期も会員資格も残り一年となってしまいましたが、向後も一歩一歩着実に前へと踏み出し会員の資質向上を目指し、努力を積み重ねて参りますので、皆様には変わらぬご指導ご鞭撻また当会活動へのご理解とご協力を賜りますよう何卒宜しくお願い申し上げます。

福岡県神道青年会創立六十周年記念事業
第六十二回神宮式年遷宮 お白石持行事

福岡県神道青年会　第三部会　会長　久富 貴文（日吉神社 禰宜）

平成二十五年の福岡県神道青年会創立六十周年記念事業の一つとして第六十二回神宮式年遷宮 お白石持行事・特別神領民に是非とも御奉仕したいという提案がなされてより早二年が経ちました。提案から途中経過までは、ぬぼこ第一〇〇号に宮原監事が詳しく書かれておられますが、記録の為にも大まかな内容をこちらにも記載させて戴きます。

平成二十四年二月、県内各社様へ募集開始、各日多数のお申し込みを賜りました。平成二十四年七月、お白石持行事奉献本部より左記の人数の御奉仕の御許可が下されました。八月三日内宮様へ四十五名、八月五日内宮様へ百八十名、八月三十日外宮様へ四十名。それぞれ一泊二日、二泊三日の旅程を準備させて頂き、各参加神社様より行事参加費と旅行参加費を平成二十五年五月末までに随時御入金して戴きました。お白石持行事に着用します法被セット、白ズボン、白帽子は各神社様へ郵送させて戴きました。白ズボンのサイズ変更が事前に行えたことは良かったと思っています。以上が、ぬぼこ第一〇〇号に記載されてある内容です。

扨、宮原監事よりお白石持ち行事の担当部会長を引継ぎ順調に準備を進めていたのですが、出発の三ヶ月前に予期せぬ問題が発生しました。この予期せぬ問題の記述は長くなるが後々のために記載しておくことにする。平成二十五年五月末、参加神社様のためのお白石持ち行事並び旅程説明会の資料を作成中でした。旅行会社J社へ部屋代などの追加料金を問い合わせていたところ、何日待っても返事がありませんでした。私は二人部屋などを希望しておられる参加神社様に返事をしなければならないためにも、早く追加料金を知りたかったのです。少々苛々し催促の電話をJ社担当者に掛けました。すると一人部屋・二人部屋・三人部屋の「約」の追加料金が分かりました。しかし数日待たされた上に「約」という曖昧な情報のみ。なんだか、このJ社担当者は信用出来ないなぁと思いました。この時すぐに正確な金額を連絡しますという返事をもらったのですが、三十分後掛かってきた電話の内容は『旅館から四人部屋の確保及び希望の部屋数を用意出来ないと言われました』という連絡でした。事前にJ社と第三部会の打ち合わせにより一部屋は「四人部屋」ということになっており、既に各参加神社様にも一部屋は四人部屋ですと御案内させて戴いていたので、この連絡は担当部会としては到底納得いくものではありませんでした。至急、森六十周年実行委員長、花田会長、宮原監事をはじめ役員の皆様の判断を仰ぎました。青年会役員の皆様の判断は、この記念事業の開始当初に森六十周年実行委員長が示した方向性の一つ『御参加の方々が安心して宿泊できるようにしたい』に基づくものでした。ここでJ社に伝えたことは、従来の部屋割りで調整する事、並行して別の宿泊先も探しておく事の二つでした。なんとか事態を収拾するために青年会役員とJ社担当者の緊急会議を開きました。花田会長・重村事務局長は、冷静に経緯を聞いておられた後、こちらの要望を強くJ社に示しておられました。また波多野光隆監事も何とか打開策を打ち出そうと仰って下さっている。そんな中、相変わらずJ社担当者は青年会の希望部屋数を用意出来ないと言っている。私は一年以上も前からJ社と打ち合わせしてきた事は一体なんだったのだろうと思うと、ついつい声を荒げてしまいました。J社担当者には、こちらの希望は曲げてなるものかと、従来の希望部屋割りで進めるように強く要請しました。しかし、このままでは青年会の役員の皆様、なにより御参加の方々に迷惑が掛かってしまう、なんとか解決策を探さねばと迷走していました。それから数日後、J社担当者から、一班と三班については四人部屋の確保、二班については四人部屋の確保は出来ていませんが、別の宿泊先を予約することが出来ましたという連絡がありました。まだまだ安心は出来ませんが、ほんの少し解決へ前進出来ました。平成二十五年六月十七日、福岡県神社庁にて説明会を開催させて戴きました。役員のみの打ち合わせ時点では依然として状況は変わっていません。説明会開始直前にJ社担当者が着席し、御参加の皆様へ旅行行程の説明が始まりました。御参加の方々からの質疑にJ社担当者が応答している最中にJ社の資料に目を通していると、なんと希望通りの部屋割りになっていました・・なぜ、こんな大事なことを事前に私に報告しないのだろう。そんなことを考えるより先に、やっと御参加の方々に安心して宿泊して頂くことが出来ると思うと忽然と嬉しくなってきました。しかし、なぜ急に希望の部屋を用意できたのだろうか？詳しくはわからないが二部会の大先輩方の御力添えによるものということだった。こうやって青年会の活動は先輩方に支えられているんだと熟と実感し、改めて初

心に帰り何としても行事を成功させねばという思いに駆られました。

愈々八月に入りお白石持ち行事の御奉仕となりました。各班共通の旅程として次の順序で進行致しました。初日早朝より博多駅にて集合し、御参加の方々へ名札の配付などを行いました。集合より出発するまでは時間の余裕があったために、一人も乗り遅れることなく新幹線にて出発できました。二部会の方々は小倉駅より合流乗車し、そろって新大阪へ到着。この間に初日の旅程などの説明や、御参加の方々へ必要なものを配付したりました。新大阪にてバスに乗車。ドライブインにて昼食。ただし直後に二見興玉神社にて正式参拝を行うのでアルコールは禁止とさせて戴きました。正式参拝は法被着用にて行うにあたり、事前に新大阪にてバス乗車の際に手荷物として法被を車内に持ち込んで戴きました。今回の行事中に誘導等に使用する幟等は禁止されていましたので、画用紙に大きく福岡県と記入したものを集合時の目印として準備しました。これが後々役に立ちました。二見興玉神社参道にてお白石持ち行事の前日受付及び記念写真の申込を行いました。参道より二見興玉神社の本殿にたどり着くまでに多くの御参加の方々が写真撮影をはじめられました。私たち神職にとって今回の参加の意義は「御奉仕」です。しかし御参加の方々にとっては今回の行程は「楽しい旅行」でもあるのです。みなさん海を背景にとても楽しそうに記念撮影をされていました。二見興玉神社にて心身を清めて頂いた後、ホテルに移動して宿泊。この日の夕食のアルコールはほどほどに抑えて頂きました。なぜなら翌朝は、お白石持ち行事の御奉仕日であり、午前六時前に朝食をとり一息つく間もなくホテルを出発するからです。ホテルより集合場所へバスで移動の際に参加証である木札を首から提げて頂きました。この木札に奉曳の指定場所が記されていました。二班に関しては最前列を曳く幸運に恵まれ、その一番先頭を波多野副庁長に曳いて頂けた事は担当部会長として、何よりも喜びを感じた瞬間でした。そして綱を曳く際の掛け声が参加者をとても元気にさせてくれました。エンヤ！エンヤ！エンヤ！どうした！エンヤ！元気が！エンヤ！ないぞ！エンヤ！声出せ！エンヤ！まだまだ！エンヤ！この掛け声を聞くと不思議と、もう一息頑張ろう！という気持ちになってきます。御白石を清浄な白布に包み奉持し歩いて行くと長い長い参道には玉砂利の音のみが響き渡っていました。もうすぐ新宮だと思うと嬉しい気持ちと前に進むのが何だかもったいないと思う気持ちと二つありました。まだ暫くの間は一歩一歩静かに大切に歩いていたかったのです。新宮の御敷地には既にたくさんの御白石が敷かれていました。それはとても神々しく新宮の美しさをさらに引き立てていました。そして御参加の方々は思い思いに遥拝をされており、その様子を拝見すると、皆さん一様に嗚呼ここが日本の中心なんだと感じているように見えました。

行事中にいくつかの発見がありました。一班の方々が気付いた点として、法被の袖口に赤リボンをつけたほうが良かったと御助言を頂き、それを二班に実行させて頂きました。二班は百八十名という大人数の中、小さい子供から年配の方までいました。進行中の列もかなり縦長となり行事中にはぐれる可能性も大いにあったと感じました。案の定、進行中に三名ほど人がいません。私は常に最後尾にいるように心がけていましたが、トイレに行かれた方が逸れてしまったようです。しかし、一班からの赤リボンの御助言と大きく福岡県と書いた画用紙のおかげで、三名も捜索後すぐに見つけることができ無事に行事を行うことが出来ました。また三班が出発する前日より台風が発生したという情報がありましたが、幸いにも台風は我々福岡県奉仕団を避け、晴天に恵まれながらの御奉仕が出来ました。普段の行いが良いから晴れたんだという三班の方々の声が聞こえきそうでした。そして余談的な発見ですが、旅行中もっとも頼りがいのある男がいました、一泊二日、二泊三日の旅程の中で御参加の方々の様々のリクエストに丁寧に答えていたJ社担当者でした。彼の活躍なくして旅行の成功はなかったと言えます。

最後になりましたが、この記念事業を完遂出来たことは、福岡県神社庁 西高辻信良庁長様を始め県内各社の宮司様及び当会諸先輩方、現在活躍しています役員及び会員の皆様の御理解御協力の賜物と篤く御礼を申上げます。そして二年間、共に取り組んできた三部会の仲間達にも感謝したいと思います。

今回参加した役員の名前を記載しておきます。二十年後の青年会員が再び御白石持ち行事に参加しようとする際は左記の人たちにアドバイスを求めるといいだろう。

青年会役員奉仕者

一　班
担当三部会会員　宮原章史
青年会役員　波多野監事・森六十周年実行委員長・重村事務局長・熊谷支部委員
期　日
平成二十五年八月三日　内宮御奉仕

二　班
担当三部会会員　宮原一豪・久富貴文
青年会役員　花田会長・林田副会長・重村正親支部委員
期　日
平成二十五年八月五日　内宮御奉仕

三　班
担当三部会会員　田尻真哉・上田重統
期　日
平成二十五年八月三十日　外宮御奉仕

第四十一回神道青年九州地区協議会研修会
第三十九回九州各県神道青年親善野球大会

恒見八幡神社　禰宜　石川　真康

平成二十五年八月二十日に第三十九回九州各県神道青年会親善野球大会が鹿児島にて開催され、翌日には第四十一回神道青年九州地区協議会研修会が行われた。

二十日の野球大会では、皆チームごとに一丸となり最後まで力戦奮闘する熱戦が繰り広げられた。先ず福岡は一回戦で強豪・宮崎と対決。花田会長指揮の下、一同団結して優勝候補に立ち向かったが、残念ながら9対0で敗退してしまった。一方、北九州は初戦で長崎とあたり、試合内容は各回で高得点を取る猛攻を見せ最後は16対0で勝利を収めることができた。続く二回戦では、鹿児島との対決で、互いに5点をとって同点の状況で試合は終了。最後はじゃんけんで勝敗を決める事となり、ここで惜しくも敗退となった。当日は非常に晴天に恵まれ、炎天下の中、福岡・北九州のチームメンバーを始め、他各県の選手一同が死闘を尽くした今回の野球大会で互いの親睦、又、結束力がより一層深まった。

試合後の懇親会では、鹿児島サンロイヤルホテルへと場所を移し、九州の中でも指折りの産地である格別の芋焼酎や郷土料理を味わい、鹿児島の夜を満喫した。なお、この懇親会中、桜島で歴史的な規模の噴火が起こり、歴史にも記憶にも残る印象的な懇親会となった。

翌二十一日には、鹿児島県神道青年会主催により同ホテルを会場として約百名出席の下、神道青年九州地区協議会が開催された。第一講は、湯島天満宮小野善一郎先生が「日本を元気にする『古事記』のこころ」と題し講演され、第二講は、神宮宮掌尾崎友季先生が「第六十二回神宮式年遷宮について」と題し講演された。式年遷宮は戦国時代の動乱による中断や、終戦直後の延期などの様々な困難があったが、神道青年連合協議会のご尽力などにより、四年越しに斎行された。先人達が乗り越え、紡いできた御遷宮という日本が誇る素晴らしいこの大事業を、先輩達の意思を継ぎ、現神道青年会の我々が次の第六十三回式年遷宮を盛り立て、広めていきたいと思いを強く感じる講演であった。

このように熱戦を繰り広げ各県の親睦を深めた野球大会や、講師の先生方から熱く興味深いお話を聞くことが出来た研修会と、鹿児島での二日間は大変充実したものであった。

宮内庁・神宮司庁・神社本庁 御用達
井筒装束店
装束・調度・御神輿・雅楽器
舞楽衣装・授与品・雅児衣裳
〒600-8503 京都市下京区油小路通六条上る
装束店 フリーダイヤル 0120-075-980番
東京店 フリーダイヤル 0120-863-522番
福岡店 フリーダイヤル 0120-055-092番

私達はレイエットメーカー、
赤ちゃんといっしょの夢を見ます。
Akachan no Shiro
株式会社 赤ちゃんの城
〒830-8630　福岡県久留米市津福今町 373-1
TEL：0942・37・8111　FAX：0942・35・6231
URL http://www.baby.co.jp/

神道行法禊練成研修会

太宰府天満宮　出仕　畑中　憲一

平成二十五年九月二日、第一部会の担当により神道行法禊錬成研修会が太宰府天満宮で開催されました。当日は、福岡県神道青年会花田　武会長をはじめ二十一名の参加があり、太宰府天満宮御本殿での正式参拝後に開講式が行われました。

講師は昨年に引き続き、道彦として飯盛神社　禰宜　野上雅貴先生、助彦として太宰府天満宮　権禰宜　松尾太輔先生の両名をお招きし、午前中は研修室にて講義を賜りました。午後からの本番に備え教室では実際に、禊行法の練習を行いました。禊と一言で言っても、振魂、祓詞斉唱、鳥船行事、雄健行事、雄詰行事、伊吹行事を経て、やっと水の中に入る身滌行事となります。そして最後は、全員で拍手をし、お互いに「おめでとう」と祝福します。この「おめでとう」お互いを褒めたたえるところが、神道らしいなと私は思います。

午後から、いよいよ禊場での禊行法を行いました。天候は晴れで穏やかな気候の中でありましたが、禊場は天然の井戸水を使用しているため、入った瞬間悲鳴が聞こえるほど冷たい水でありました。鳥船行事を真剣に行い、しっかり水に入る準備をすることが大切であると痛感しました。冷たい水の中で、大祓詞を斉唱していると「冷たい」とか、「きつい」等の感情、我欲が消えて行き、頭が真っ白になっていく感じがしました。そして段々と皆さんと心が一つになり、心が研ぎ澄まされていく感覚になりました。禊とは、つまるところ「無になる」、「原点に戻る」、ということではないだろうかとこの時に感じました。

そして野上先生は、講義の中でその心を日常に生かすことが重要だとも仰っておられました。

その後鎮魂、魂振を先生方からご指導賜りました。諸作法を一通り体験してみましたが、その意味は神様の威霊を体内に招き鎮めるとともに、その威力によって自分の霊魂に刺激を与え、その結果として霊魂を誘発して、より強い威力ある霊魂として恢復、定着させるというものであります。

今日一日体験した禊行法で、原点回帰した清らかな気持ちでこれからも神明奉仕に務めていきたいと思います。

最後にご指導賜りました、野上雅貴先生、松尾太輔先生、誠にありがとうございました。

【授与品と装束】
オリジナル
錦織お守り
京都奉製株式会社
本社営業所　京都市左京区静市市原町129-125
電話（075）741-3221
フリーダイヤル　0120-164124　イロヨイニシキ
福岡営業所　福岡市博多区板付5-3-11
電話（092）592-3015

KOWA
KOWA DISPLAY CO.,INC
大切なイメージを
カタチにします。
株式会社　晃和ディスプレイ
東京都目黒区目黒本町3-13-10　〒152-0002
Tel:03-3792-0211 Fax:03-3792-0925
ホームページ　http://www.kowa-dsp.co.jp/

秋の全国交通安全運動

若松恵比須神社
権禰宜　谷　洋平

去る九月二十一日「秋の交通安全県民運動」の一環として「秋の全国交通安全運動in北九州」が小倉駅広場にて行われた。この運動は、飲酒運転の根絶や後部座席を含むシートベルト・チャイルドシートの正しい着用、また高齢化社会への移行などにともない、先般改正された道路交通法の普及、徹底などを目的として各自治体警察主催のもと全国各地で開催されている。昨年度、我が県では「福岡県飲酒運転撲滅運動の推進に関する条例」が施行され若干ながら違反者の減少傾向にある。当日は交通安全協会の諸団体と共に福岡県神道青年会として神職、巫女合わせて十六名が参加し違反者根絶を訴えた。神職として出来ることは、また社会の一員として担っていくべきことは何なのかを念頭に運動に参画した。我々にとってこの運動は自分を見直すだけでなく氏子関係者・参拝者の方々に対しても日頃から交通安全の重要性を伝導していくべきものであろう。

福岡県神道青年会創立六十周年記念事業一般公開セミナー

「お神様の環境づくりで、神社神道が社会の役に立つ？～様々な人々が生き生きと関わるためのこれからの神社活用法～」

太宰府天満宮　出仕　高山　博子

去る平成二十五年十一月二十九日、福岡県神道青年会創立六十周年記念事業一般公開セミナーが宮崎宮の参集殿で開催された。『商店街はなぜ滅びるのか』の著者新雅史氏を講師に迎え、「お神様の環境づくりで、神社神道が社会の役に立つ？～様々な人々が生き生きと関わるためのこれからの神社活用法～」と題した講演で八十四名（うち一般参加者三十二名）に参加いただいた。

人々の価値観や生き方の多様化、社会構造の変化を背景に、またネット社会の進化やコンビニ・スーパーの宅配業務の充実により、ますます人が住宅から街に出ない「住宅のシェルター化」が急速に進行するなど現代において「まち」が機能しなくなって来ている。

若い人の間ではネットを通じて繋がったアニメファンが聖地巡礼することに見られるように、趣味では繋がっているが地域では繋がっていないという現状があり、地域アイデンティティの形成が今、重要となって来ている。

その核をなす考え方が、この地域に誇りを持てるか、なぜ私はそこにいるのだろうか、ここで死んでいくのだろうかという「シビック・プライド」。

街への愛着やシビックプライドの形成にとって、文化的媒介者（建築家、芸術家、まちづくり関係者）は欠くことのできない存在であるが神社は既に、古いものをどうやってメンテナンスやリノベーションをして管理するかにおいては何千年もの歴史の中で普通にやってきており、建築・アート・行政の専門家であると言える。この意味においても神社は、現代に生きる日本人の心の拠り所としてだけでなく地域社会で愛される文化発信の拠点そして、まちの誇り＝シビックプライドとなるべき存在である。よってそこに奉仕する神職は文化の媒介者としてその役割に大きな責任がある。

神社への関心が高まっている中で、私たち神職がいかに多くの人と手を携えて未来永劫続くように活動できるか・神社の目線だけでなく地域にある神社として人々が生き生きと関わることのできる場とすることができるよう、明日からの活動に発展させて行きたい。

教養研修会

「東日本大震災の今と向き合う　～東日本大震災から学ぶ防災とは～」

宇美八幡宮　権禰宜　鶴我 盛陽

去る平成二十五年十二月六日、筥崎宮社務所に於いて「東日本大震災の今と向き合う」～東日本大震災から学ぶ防災とは～という演題のもと、福島県より熊野神社　禰宜　吉田　定聡先生　海洋プランニング㈱熊谷　航先生をお招きして、福岡県神道青年会・長崎県神道青年会の合同研修会が開催された。

講演の内容は、地震や津波の被害、そして原発事故の影響や風評被害等を中心に、今日に至るまでの、復興活動や現地の状況である。また津波の影響を受けた神社と被害を受けなかった神社の異なる点や、神社を中心とした町の復興や、流失した社殿でどのように神事を行っているか等といった、報道等で取り上げる事のない、体験からのリアルなお話を伺う事ができた。

震災発生から歳月が経過すると同時に、震災についての報道が少なくなっているが、現地では風評被害や復興に関する問題点が多く残されており、被災地での生活も地震発生後から大きく変化しており、復興を行っていく中での問題点等のお話を伺うことができた。

先日、平成二十五年十二月四日は、早くも震災発生から一〇〇〇日目を迎えた。

私も福岡県神道青年会の会員として平成二十三年八月一日から四日まで福島県いわき市に復興支援に行かせて頂いたが、それから二年の歳月が経過し、記憶が薄れてきている。東日本から遠方の地である福岡において、今、我々青年神職に何が出来るか。そしてその考えをどのように実行するかを改めて考える事となった。

講演の後には、各グループに分かれ「青年神職として出来る復興支援活動とは何か」と題して意見交換会が設けられ、各グループで多くの意見が出され、我々に出来る事について議論された。また懇親会も研修の一環であり、東北の復興の足かがかりになる事を願い、東北の郷土料理とお酒を揃えて頂き、福岡県・長崎県の親睦もより一層深まった。

神祭具便覧第35巻15・383頁に掲載いたしております。
民俗工芸オリジナル
初宮詣授与品セットA～J
その他初宮商品各種取り揃えております。

【D015-09】初宮詣授与品セットI
株式会社 民俗工芸
TEL 0120-534-550
FAX 0120-872-550
〒857-1162 長崎県佐世保市卸本町18-1 URL▶http://www.minzoku.co.jp

祈りをかたちに
授与品・記念品御奉製
株式会社 長谷川製作所
代表取締役　長谷川義貢
〒340-0025 埼玉県草加市谷塚仲町466-1
TEL 048-921-1221（代表）FAX 048-921-1515

北方領土返還推進街頭活動

第一部会

宗像大社　権禰宜　鈴木祥裕

一月二十九日、夕刻五時より約一時間に亘り、多くの人々で賑わう西鉄天神駅前にて一部会々員二十名に加え、例年御協力頂く福岡県婦人連絡協議会十名が集い、北方領土返還のためのチラシを詰めたポケットティッシュ二〇〇〇個を配付し、日本固有の領土である「北方四島（歯（はぼ）舞（まい）・色（しこ）丹（たん）・国後（くなしり）・択捉（えとろふ））」の返還を呼び掛けた。

街宣活動では、お年寄りから高校生まで、様々な人にティッシュを配付し、返還を呼び掛けたが、「頑張れ」と応援の声を掛けて下さる方々は、北海道に赴任し身近に感じていたという方や、年配の方が多かったように感じられた。次世代を担う若者が、北方領土は「日本固有の領土」であり、占領されているという認識をもつことは必要不可欠なことではないだろうか。

北方領土を始め、竹島、尖閣諸島など、近隣諸国からの脅威にさらされる日本。未来を創る若者へ、正しい歴史を伝えるべく、今回の街宣活動をはじめ、さらなる活動へつなげていければと思う。

第二部会

大原八幡神社　禰宜　平石和青

一月二十二日小倉駅南側デッキにて毎年恒例である、北方領土返還促進運動を行った。

時折小雨の降る、寒空の中、午後五時から北方領土返還ティッシュ及び広告チラシを配り始めた。寒さと忙しい時間帯とが重なったためか、道行く人はみな足早であった。

そんな中、会員一同心に力を合わせて街宣活動に取り組むこととなる。

北方領土返還ティッシュ及び広告チラシは、ティッシュが嬉しいのか、北方領土返還運動に興味があるのか、おそらく後者であると思われるが、今年も大人気であり、瞬く間に用意していた北方領土返還ティッシュ及び広告チラシは、配り終えてしまった。

街宣活動中は、たくさんの方々に、声をかけて頂いた。若い方に「竹島」「尖閣諸島」についても知りたいと尋ねられ、両島の説明がされているチラシを一緒に渡した。若者の右翼化が進んでいるといわれる昨今、領土問題についても、考える人が増えたように思えた。今も日本固有の領土であるにもかかわらず、占領されている現状を一人でも多くの方に認識してもらい、一日でも早く返還が実現するよう、声を大にして活動をしていくことが、地道ではあるが、必要なことと再度確認することができる活動となった。

こころのよりどころ　授与符
創業安政弐年
株式会社秋江
〒602-0056
京都市上京区堀川通上立売下ル北舟橋町835
TEL 075-432-2255(代)　FAX 075-441-8011

国宝・重要文化財指定建造物
保存修理工事専門
株式会社 小山社寺工業所
〒812-0054　福岡市東区馬出5丁目36-43
電話 (092)641-4847・651-4847
FAX (092)641-2278

第三部会

日吉神社　禰宜　田中伸明

私たち第三部会は、一月二十二日に北方領土返還促進運動を十一名の参加にて行いました。

当日は、青年会員と地元婦人会で協力し、西鉄久留米駅前にてティッシュと県民集会のチラシ、そして尖閣諸島のチラシを配布しました。

前夜の雪の影響で大変寒い中での活動になりましたが朝八時から約一時間三〇分にわたり配布活動を行いました。

その後は、久留米、筑後、柳川、大牟田、瀬高、城島、大川と筑後地区一円を街宣車にて廻り、北方領土の早期返還を呼びかけました。

午後には、大牟田ユメタウンに於いてもティッシュ配布を行いました。

今回の活動を行う中で、世間の関心の薄さを感じました。

今からもこのような活動を続けていくことで、国民の国土への意識が高まり、北方領土の早期返還がなされることを望みます。

平成二十六年北方領土返還促進福岡県民集会

岡田神社　権禰宜　今東　源一郎

去る平成二十六年二月七日、久留米市のハイネスホテル久留米において、恒例の北方領土返還促進福岡県民集会が開催された。

本年は『心から願う平和と四島返還』を標語に掲げて、多くの方々が参加する中での県民集会となった。

先ずは開会式が行われ、主催者である木下幸子会長の挨拶をはじめ、来賓の方々の挨拶や、県民集会開催の祝電が披露された。

次に北九州市立曽根中学校主幹教諭である梶永啓文先生による『「北方領土問題教育指導者現地研修会」報告』が行われ、二十五年八月に北方領土問題の教育指導者研修の様子についてご報告頂いた。

梶永先生の研修報告の後、2つの記念講演が行われた。先ず、第一講演では『元島民の体験談』と題して、北方領土の元島民である小宮良俊先生に御講演頂いた。小宮先生の講演は、自らが生まれ育った故郷を理不尽に追われた憤りと、そして元島民としての郷土への哀愁が痛切に感じられるものであった。

次の第二講演では『日本が直面する領土問題とその対処法』と題して、拓殖大学国際学部教授である下條正男先生に御講演頂いた。下條先生は領土問題の専門家、そして保守系論客として多方面において大いに活躍をされている方である。それだけに北方領土に関するこれまでの日露政府間の交渉、そして我々の北方領土返還促進活動の現状について非常に手厳しい御指摘を賜った。確かに北方領土がロシアに不法に占拠されて、まもなく七十年近い年月が経つ事になる。このままでは北方領土が不法に占拠されたまま一世紀を迎える事になってしまうのも時間の問題であろう。下條先生が仰られたように、これまで日露両国の政府がいくら交渉を重ねても、そして我々がいくら北方領土返還を叫び続けても、北方領土は還って来る事は無かった。無念ではあるがこれが残酷な現実である。勿論、だからといって諦めるという訳ではない。歴史的な根拠は明確に日本にあるのである。この事を今まで以上に世界へ向けて発信し、「北方領土は歴史的にも国際法的にも日本領」という事を世界に知らしめて行くのが重要であると仰られた。今回の御講演で下條先生に発破をかけて頂いたと思い、我々も現実を見つめなおし、そしてこれを一つの契機として、気持ちを新たに国民の北方領土返還への熱意を結集させていく使命を果たさなければならないと強く感じた次第であった。

講演の終了後は草場重正理事により決意表明が発表されると全会一致で採択され本年の県民集会は盛大のうちに幕を閉じた。

福岡県神道青年会創立六十周年記念式典・記念講演・祝賀会

岡田神社　権禰宜　今東 源一郎

去る平成二十六年二月二十七日、福岡市博多区の八仙閣に於いて、福岡県神道青年会創立六十周年記念式典及び同記念講演、同祝賀会が開催された。

当日は県内外からの来賓、県内各社の宮司様に多数御出席いただき、福岡神青会の還暦を祝うに相応しい盛大な式典となった。

式典では花田会長の挨拶の後、来賓である波多野盾夫県副庁長様をはじめとして、南坊城神青協会長、神九地協副会長の御挨拶を賜り、また千々和二十二代会長、久富真人二十三代会長、田村邦明二十四代会長、磐梨二十五代会長、久富義人二十六代会長以上五名の歴代会長へ感謝状が贈呈された。式典の最後には田村靖邦顧問様の先導で聖寿万歳を行い、式典は滞りなく終了した。

引き続き行われた記念講演では、講師にクルミドコーヒー店主であるベンチャーキャピタリスト・影山知明先生をお迎えして、一般公開講演という形で開催された。講演では、影山先生が立ち上げたカフェのコンセプトともいえる、「人々が特に目的も無く集まれる場所」について講演頂き、これからの神社があるべき姿、また神社だからこそ出来る事というものについて深く考えさせられた。今回六十周年という佳節迎えて新たなスタートをきる我々福岡神青会にとって相応しい講演であったのではないだろうか。

講演後に行われた祝賀会では竹間副庁長様の乾杯の発声で賑々しく始まり、和気藹々とした雰囲気の中で盃を交わした。余興では当日御出席頂いた歴代神青会会長達による餅つきが行われ、林田九代会長、田村靖邦十代会長、高尾十八代会長、波多野直之十九代会長、八坂宣匡二十代会長、久富真人二十三代会長、田村邦明二十四代会長、磐梨二十五代会長、久富義人二十六代会長、森二十七代会長がそれぞれステージに登壇し、それぞれ餅をついて頂いた。最後に花田現会長と重村事務局長が餅をつき、歴代会長達の魂がこもった「祝い餅」が見事に完成。祝い餅は出席者全員に振舞われ、会場内は大いに盛り上がった。

その後、「祝いめでた」を全員で歌い、最後に手一本で締め、これをもって六十周年記念事業の全てが盛大のうちに終了した。

東日本大震災復興祈願祭

福岡県神道青年会事業委員長（櫻井神社　禰宜）
外山　貴寛

本事業開催のきっかけは花田会長が風化しつつある現状を問題提起されたことに始まります。私達青年神職が東日本大震災復興へ向け、何ができるのかを第一に考え「祈り」と「米」をテーマに事業を進めて参りました。本年は森実行委員長を中心に「心魂～新たなる一歩へ～」を掲げ、対外向け事業を展開しつつ、神職の本分である祈りを実践し、活動して参りました。この記念式典が終わったはじめの事業であり、このスローガンを絵に描いた餅にしてはならないとの責任も感じつつ、どうすれば多くの人々と震災復興への祈りを共有することができるのかを考え、ＪＡとの共催事業を思い立ち行動しました。私がＪＡ福島へこの事業の協力依頼に行った際、担当職員から独自に安全基準検査等の様々な努力をしているが、福島と名が付いただけで、農作物が売れないとの深刻な風評被害の問題をお伺いました。私達神職は神と人との仲取り持ちとして日々神明に奉仕し、神々に祈り、氏子・崇敬者に伝えることができる立場にあります。物質的な援助も一つの復興支援ではありますが、心の復興支援を目的にし、復興支援に関わる人達の輪を広げることこそが、私達青年神職の行動力であると信じ活動して参りました。お陰を持ちまして青年会員が一丸となり協力者を募り、二千人を超える人達が本趣旨に御賛同頂き五万袋の撤下米を奉製することができました。ある高校では普段ボランティアを募集したとしても少ししか集まらないそうですが、今回は一九〇名もの高校生が手伝ってくれました。「私達は現地に行って活動はできないけど、これなら私達にもできる取り組みだから協力するよ！」なにげない言葉ですが、同じ日本で起こった災害をまるで自分のことのように思ってくれる。そんな日本に生まれて良かったと改めて考えさせられました。

さて、去る平成二十六年三月十一日東日本大震災復興祈願祭が波多野盾夫・竹間宗麿両副庁長はじめ多くの御参列を頂き斎行致しました。ＪＡ福島中央会庄條徳一会長とＪＡ福岡中央会松尾照和会長にはお忙しい所、参列に引き続き撤下米頒布事業にも御協力頂き、会員や高校生等約一五〇名の方々と街頭に立ち、一万人に撤下米を頒布致しました。今後も県内各神社に於きまして復興祈願祭が執り行われ、撤下米が頒布されます。各家庭で撤下米を食して頂き、神々の息吹と共に風評被害を払拭し、復興への一助となることを切に念じております。震災被害は終わっていません。避難生活が続き苦しんでいます。風評被害で心を込めて作った農作物が売れません。同じ日本で起こっていることです。この先も私達は被災地に寄り添い活動して参りたく思います。最後になりましたが本事業開催にあたり福岡県内各宮司様には多大なる御協力を賜りましたこと厚く御礼申し上げます。

宮内庁御用達
京都
木村新造装束店
〒602-8033　京都市上京区小川通丸太町上る
TEL 075-231-2085　FAX 075-231-2144

永年に亘り御下命頂き今日迄
社団法人
全国社寺等屋根工事技術保存会会員
重要文化財修復工事
神社、寺院建築工事　設計、施工
檜皮、柿、銅板葺工事
狩野興建株式会社
事務所 〒812-0054　福岡市東区馬出5丁目26-11
TEL 092-651-2345　FAX 092-651-3060

オリジナル御守
九相株式会社
〒803-0814 北九州市小倉北区大手町10-50-817
TEL 093-592-5588　FAX 093-592-5977

神祭具　授与品　記念品　奉製
株式会社 神路社
本社〒516-8611(私書函第26号)　三重県伊勢市岩渕2丁目5番29号
電話番号 0596-24-5858　FAX 0596-24-5110
神苑(東日本営業所)〒150-0013　東京都渋谷区恵比寿1-26-14SSRビル4階
電話番号 03-3280-6720　FAX 03-3280-6721
URL http://www.kamijisya.co.jp

平成25年度

福岡県神道青年会賛助会費納入者御芳名

（一九七名・二三六口）

平成二十五年度も賛助会員の皆様より、多くのご協賛を賜りました。厚く御礼申し上げます。賛助会費を納入いただきました皆様の御芳名をここに掲載し、ご報告とさせていただきます。（「福岡県神社庁関係者名簿」記載順。敬称略。二口以上は太字。平成二十六年三月三十一日受付分を掲載しております。）

福岡支部

水鏡神社　宮司　小鳥居良彦
警固神社　宮司　前田安文
福岡県護国神社　宮司　田村豊彦
権禰宜　中島之啓
権禰宜　中嶋淳
光雲神社　宮司代務者　石津美智子
住吉神社　宮司　筒井實
照天神社　宮司　筒井渫
若八幡宮　宮司　高木茂之
住吉神社　宮司　横田昌和
禰宜　峯吉生
権禰宜　高野維敦
櫛田神社　宮司　阿部憲之介
禰宜　山崎治明
禰宜　日吉克義
十日恵比須神社　宮司　野上清隆
権禰宜　串間清克
権禰宜　是則光利
宮崎宮　宮司　田村靖邦
香椎宮　宮司　足立憲一
禰宜　上原和憲
権禰宜　楠本展将
権禰宜　稲永孝典
部木八幡神社　宮司　内海拓馬
紅葉八幡宮　宮司　平山晶生
菊池神社　宮司　大谷華代子
熊野道祖神社　宮司　飯田祐一
高宮八幡宮　宮司　古賀靖啓
鷲尾愛宕神社　宮司　千代浩二
飯盛神社　宮司　牛尾秀司
禰宜　野上雅貴
登志神社　宮司　定直廣庭

粕屋支部

磯崎神社　宮司　篠崎勝美
貴船神社　宮司　渡邊正志
宇美八幡宮　宮司　伊藤佳和
権禰宜　田代智
権禰宜　宮本道輔
権禰宜　原健二
諏訪神社　宮司　内川道臣

宗像支部

諏訪神社　宮司　高宮秀文
宮地嶽神社　宮司　浄見譲
禰宜　阿部信
権禰宜　宇都宮勤
権禰宜　吉良義男
権禰宜　野中芳春
権禰宜　廣渡孝一
東郷神社　宮司　川野萬里子
宗像大社　宮司　高向正秀
禰宜　葦津敬之
禰宜　葦津幹之
禰宜　渡邉秀丸
権禰宜　杉山安彦
権禰宜　佐々木大治
織幡神社　宮司　永島淑子

鞍手支部

六嶽神社　宮司　芝田章

嘉飯山支部

高宮八幡宮　宮司　青柳眞知子
撃鼓神社　宮司　佐伯嘉彦

朝倉支部

曩祖八幡宮　宮司代務者　毛利謙吾
高祖神社　宮司　青柳俊道
若八幡神社　宮司　西田智子
北斗宮　宮司　大里吉比古
老松神社　宮司　高森直臣

筑紫支部

伏見神社　宮司　酒井求
春日神社　**宮司**　**星野昌徳**
地禄神社　宮司　吉嗣敬介
高良神社　宮司　上野嵩良
筑紫神社　**宮司**　**味酒安志**
二日市八幡宮　宮司　梅野洋充
太宰府天満宮　宮司　西高辻信良
権宮司　小鳥居信行
禰宜　森五郎
禰宜　味酒安則
禰宜　後藤敏
禰宜　八坂宣匡
権禰宜　平木一吉
権禰宜　松永博康
権禰宜　佐奈正彦
権禰宜　毛利清彦
権禰宜　栗原昌久
権禰宜　御田良知
権禰宜　井上良彦
権禰宜　西原強
権禰宜　松尾太輔
権禰宜　田中教介
権禰宜　野村木乃実
権禰宜　新西靖斉
権禰宜　藤田英雄
権禰宜　小鳥居良信
権禰宜　柴田浩二
権禰宜　有吉重幸

糸島支部

産宮神社　宮司　岡本武文
住吉神社　宮司　徳安正大

神社授与品御用達
株式会社　三宝社
〒115-0052　東京都北区赤羽北三丁目3番14号
電話　03-3906-0988(代)　FAX　03-3905-2422

全国神社寺院各種御守
授与品初宮詣七五三詣用品　企画奉製
グリーン産商株式会社
〒547-0033 大阪市平野区平野西4-8-29
営業所 06-6702-6009(代表)
FAX 06-6797-5460

御社頭授与品
御参拝記念品
立案調製
〈営業品目〉
●交通安全御守護
●開運招福鈴
●文鎮　金盃
●各種記念品類
●胸像立体ブロンズ
●レリーフ類
鈴木徽章工芸
株式会社
〒113−0032 東京都文京区弥生2−12−1
TEL. 03−3814−1811(代)
FAX. 03−3818−8332
E-mail:info@suzuki-kisho.co.jp
http://www.suzuki-kisho.co.jp

各種授与品奉製
株式会社　三愛工芸
〒311-4143
茨城県水戸市大塚町字谷津1761番16
TEL 029-251-2051(代表)　FAX 029-253-5844

- 宇美八幡宮　宮司　武内純夫
- 八幡宮　宮司　豊田俊實
- 櫻井神社　宮司　外山穰也
- 生松天神社　宮司　宮崎千秋
- 志々岐神社　宮司　御床治之
- 深江神社　宮司　空閑隆和
- 白山神社　宮司　河上定德
- 白山宮神社　宮司　宮崎秀之

遠賀中間支部

- 伊豆神社　宮司　岡直彪
- 岡湊神社　宮司　林田守邦
- **狩尾神社　宮司　波多野茂丸**
- 月瀬八幡宮　宮司　佐野正稔
- 高倉神社　宮司　久間武春
- 浅木神社　宮司　門司成人

八幡支部

- 枝光八幡宮　宮司　波多野典満
- 髙見神社　宮司　波多野學
- 権禰宜　尾形宗治
- 天疫神社　宮司　吉田泰信
- 豊山八幡神社　宮司　波多野雅夫
- **仲宿八幡宮　宮司　波多野盾夫**
- 一宮神社　宮司　波多野正信
- 岡田神社　宮司　波多野直之
- **八剣神社　宮司　伊髙正和**
- **杉守神社　宮司　千々和直信**
- **禰宜　千々和直章**
- 須賀神社　宮司　末松公博

戸畑支部

- 中原八幡宮　宮司　青木一

若松支部

- 若松惠比須神社　宮司代務者　阿部憲之介
- 白山神社　宮司　大藤安教
- 白山神社　宮司　三木貴文
- 日吉神社　宮司　伊髙繁男
- 戸明神社　宮司　相良元次

門司支部

- 戸上神社　宮司　是則宗興
- **恒見八幡神社　宮司　石川正雅**
- 貴船神社　宮司　城戸貴英
- 八坂神社　禰宜　是則光興

小倉支部

- 篠崎八幡神社　宮司　川江正文
- **御祖神社　宮司　磐梨文孝**
- **到津八幡神社　宮司　石崎信秀**
- 宗像神社　宮司　重村正紀
- 綿都美神社　宮司　平野氏英
- 葛原八幡神社　宮司　福江國彦
- 蒲生八幡神社　宮司　髙山定美
- 沼八幡神社　宮司　川江真由美
- **八旗八幡神社　宮司　宮田聖子**
- 天疫神社　宮司　福屋末次郎

京都支部

- **大原八幡神社　宮司　平石和久**
- 正八幡神社　宮司　廣瀬文夫
- 正八幡神社　宮司　廣瀬正和
- 八雷神社　宮司　重村弘美
- 二兒神社　宮司　内山知史
- 若宮八幡神社　宮司　笠正純

築上支部

- 大富神社　宮司　清原直嗣
- 足切神社　宮司　長谷川保則
- **嘯吹八幡神社　宮司　初山吉章**
- 岩戸見神社　宮司　熊谷善伴
- 金富神社　宮司　上田豊秋
- 綱敷天満宮　宮司　生田秀敏
- 葛城神社　宮司　上田久嗣
- **八幡古表神社　宮司　熊谷房重**

田川支部

- 福智下宮神社　宮司　早川保彦
- 香春神社　宮司　赤染忠臣
- 大祖神社　宮司　宇都宮正彦
- **英彦山神宮　宮司　高千穂秀敏**
- 若八幡神社　宮司　原田丈路
- 天降神社　宮司代務者　重藤政登

久留米支部

- **高良大社　宮司　竹間宗麿**
- 日吉神社　宮司　田中芳文
- **水天宮　宮司　真木大樹**
- 日吉神社　宮司　久富清司
- 篠山神社　宮司　山田茂人
- 日吉神社　宮司　渡邊泰秀

- 伊勢天照御祖神社　宮司　藤田拓治
- 日吉神社　宮司　近藤清登
- 八幡神社　宮司　井上博幹
- 櫛原天満宮　宮司　熊懐隆三

小郡三井支部

- **天満神社　宮司　髙松良三**

浮羽支部

- 八幡神社　宮司　安元良孝
- 天満神社　宮司　矢野憲一
- **天満宮　宮司　安元紀雄**

八女支部

- 六所神社　宮司　大島守彦
- **福部神社　宮司　武基孝公**
- **水田天満宮　宮司　宮原恭盛**
- **大神宮　宮司　石川照朗**
- 地主神社　宮司　齋藤昭夫

大川三潴支部

- **高良玉垂神社　宮司　大石悦司**
- 天満宮　宮司　久富真人
- 三島神社　宮司　宮崎貞臣
- 日吉神社　宮司　廣松光久
- 八幡神社　宮司　宮崎基興

柳川山門支部

- 日吉神社　宮司　山口祥子
- 八幡神社　宮司　鴨角昭正
- 下庄八幡神社　宮司　外河清英

大牟田三池支部

- 天満神社　宮司　田尻珍哉
- **熊野神社　宮司　平川訓正**
- 八幡神社　宮司　矢野高貴
- 宝満神社　宮司　西山眞隆
- 八幡神社　宮司　永井正文
- 阿蘇神社　宮司　江良博信

神社御社頭授与品・御神矢・御守・御守袋
絵馬・木札・御神符・金属・樹脂御守
《信用第一主義》
(有)福岡奉製
〒834-0081　福岡県八女市立花町山崎1961
TEL:0943-23-3412　FAX:0943-24-4483

千歳飴本舗 菓蔵家
千歳飴 製造元
床島屋製菓株式会社
本社工場
福岡県朝倉市堤古賀茶屋
電話 0946-22-3945(代)
FAX 0946-22-7748

創業150年
各種御神符・守札
その他授与品全般
湊御神符奉製所
株式会社 湊
伊勢市神宮会館前(〒516-0025)
TEL (0596) 22-2442 (代表)
FAX (0596) 28-8445

株式会社 博多人形 いとう
〒814-0161
福岡市早良区飯倉3丁目6番6号
TEL ㈹092−852−1100
FAX　092−851−5651
http://www.hakatadoll.com/
※こま犬・御土鈴・十二支等、オリジナル品企画製作　賜

創立六十周年記念事業の報告
「心魂～新たなる一歩へ～」

当会は、昭和二十八年「福岡県神職青年会」の名称で設立されてより、本年度創立六十周年の佳節を迎えました。周年を迎えるに際して、平成二十四年度から実行委員会を組織し、記念事業推進に向けて諸準備を進めて参りました。

■六十周年テーマ：「心魂～新たなる一歩へ～」

人間で言えば還暦、いわば「生まれ変わり」、「再出発」の契機と言えます。この佳節に当たり、様々な事業を通して、先達より受け継いできた神社の本質である「祈り」を原点から見つめ直し、神社の未来永劫の永続性を担保するため、自分たちが奉務する氏子地域は勿論、福岡県という枠組みの中で、現代社会が抱える問題点や、社会に求められる神社・神職の在り方を再認識し、多くの仲間たちと想いを共有し、共に汗をかき、未来へ繋がる着実な一歩を踏み出す契機とすることを目的としました。

■記念事業

①沖縄戦没者慰霊祭

（平成二十四年九月四日斎行
於：沖縄平和記念公園）

沖縄本土復帰四十周年の節目に、先の大戦の戦禍で犠牲となられた多くの御霊に対し、心から哀悼の意を表し、また今日の我が国の繁栄の礎を築かれたことに感謝の誠を捧げるため、慰霊祭を斎行。さらには、領土領海領空問題に対する啓発意識も高める機会とした。

②第六十二回神宮式年遷宮「お白石持ち行事」福岡県神社庁奉仕団

（平成二十五年八月全三回開催）
主催：福岡県神社庁
主管：福岡県神道青年会

日本人の精神的中枢である神宮。そして、千三百年以上にわたり継承され、いわば国家的事業でもある神宮式年遷宮。二十年に一度行われるこの佳節に、当会も六十周年の節目を迎え、多くの氏子総代や崇敬者と共に奉祝し、日本人であることの素晴らしさや誇りを伊勢の地で共感することができ、次回遷宮にも必ず繋がる貴重な経験となった。

一班：平成二十五年八月二日(金)～四日(日)
四十五名　内宮奉仕
二班：平成二十五年八月四日(日)～六日(火)
百八十名　内宮奉仕
三班：平成二十五年八月二十九日(木)～三十一日(土)
四十名　外宮奉仕

③会報誌「ぬぼこ」創刊号～百号全アーカイブス DVD の作成

各年代における時代の潮流を見極め、会員相互の交流と様々な研鑽を積むための情報交換の場として活用されてきた「ぬぼこ」。創刊号から百号までの全データを収載し、これまでの軌跡に感謝しつつ、後世にも長く伝えていくことを目的に作成した。

④福岡神青公式ホームページリニューアル

「繋がり」をキーワードに、十年ぶりに仕様を一新。県の事業だけでなく、各部会や地域で行われている事業にも目を向け、SNS 等を活用することで多くの会員、また一般の方へも青年会活動を共有共感していただく場にすることを目的とする。

URL:http://www.fukusinsei.org/about.html

⑤**対外向事業**：神社の内外に向けた福岡県神青独自の情報発信（教化）をするための事業

事業を通してテーマ「心魂」に通じる提言を模索し、翻っては我々自身が様々な気付きを通して、少しでも成長し、将来にわたり有益な人材として活躍できるような経験を積む機会とする。また、対外とすることで、社会の中の一員であることを意識しつつ、神社、神職が公共性を有していることを現実に認識することを意図した。

一、**福岡県戦没者慰霊祭**

（平成二十五年二月十九日　於：小倉北区足立平和公園）

祭祀の厳修は我々神職の本分であり、慰霊祭は過去と現在を繋ぐ重要な意義がある。さらには、「県」ではなく、あえて「地域」に焦点を当てた慰霊祭を斎行することで、福岡県という郷土に対する向き合い方や、先人への感謝の念を抱く。そして、草の根的な活動を展開することで、地域間の垣根を越えた相互理解を深めていくことを目的とした。

二、**一般公開セミナー**

（平成二十五年十一月二十九日　於：筥崎宮）

講師：新雅史先生（社会学者）

テーマ：「様々な人が生き生きと関わるための神社という「場」のつくり方」

私たちが奉仕する神社、そしてそれを取り巻く「まち」という環境、つまり氏子区域。我が国の歴史の中で「まち」はどのように形成され、また現代においてなぜ「まち」が機能しなくなってきたのか。人々の価値観や生き方が多様化し社会構造自体も大きく変様する中で、現代の人々が求める神社の在り方について、多角的に考察する。神社は、現代に生きる日本人の心の拠り所、まちの誇り＝「シビックプライド」である。同時に、神社は文化の集積地であり、発信地でもあり、そこに奉仕する神職は「文化の媒介者」としてその役割には大きな責任がある。

※一般参加者（約四十名）とともに地域コミュニティについて考える。講演会後の合同懇親会では、様々な意見が飛び交い、これまでにない開かれた事業を展開できた。

三、**記念講演会**

（平成二十六年二月二十七日　於：八仙閣）

講師：影山知明先生（ベンチャーキャピタリスト）

テーマ：「人々が生き生きと関われる場所づくり」

周年記念式典後の記念講演として開催。現代の人々が求めるコミュニティという「場」のつくり方、共有の仕方について、目的がなくても人々が集まることができる「場」＝「カフェ」の視点からご講演いただき、神社が置かれている状況と照らし合わせて考察を試みた。「利用し合う」関係から、互いに「支援し合う」関係になったとき、そこには「利他」の精神が働き心地よい居場所をつくることができる。神社という公共的な場所において、「私」が「私たち」となり、「人がいきいきと生きる」ために、時間（歴史）という垂直と、現代社会という水平が交わる場所となる要素を模索する。

※一般参加者（約二十名）とともに、これからの神社のあるべき姿を模索する

⑤**記念式典・記念講演・記念祝賀会**

（平成二十六年二月二十七日　於：八仙閣）

創立六十周年記念事業の総括として、福岡県内神職、全国、九州の青年神職関係者を招き、多くの方と六十周年の佳節を祝い、さらには、これまでの記念事業を総括しつつテーマ「心魂」に沿った提言を行った。祝賀会では、歴代会長による祝いの餅つきを行い、六十年

の歩みを共に祝った。
県内宮司七十名、全国協・九州協三十名、青年会員六十名。

■最後に

三年間にわたる記念事業でしたが、神社庁、県内各社の宮司様、つくし会の諸先輩方の温かいご理解とご支援により、全事業を差無く完遂することができましたこと、本紙面をおかりしまして厚く御礼申し上げます。また、ここに至るまでには、会員各位の並々ならぬ労力と時間が費やされたことは言うまでもありません。改めまして深い敬意と感謝を申し上げます。ただ、結果も重要ではありますが、私自身が一番重要に感じていることはこれまでの過程です。今となれば、これまでの一瞬一瞬の積み重ねが一番の収穫であったと振り返ります。努力と苦労の連続が、携わっていただいた各会員の皆さんの記憶と経験として残っていただけたのであれば幸甚です。共に悩み、共に汗をかき、時には考え方の違いやすれ違いから衝突し、だからこそ分かり合えた大切な仲間であると誇りに思います。共に心を磨き、新たな一歩を踏み出し始めたと確信しています。

編集後記

「福岡県神道青年会」というものは、先人達が作り上げ、そして青春の熱い想いを込めて磨き上げてきた、光り輝く「珠玉」である。この「珠玉」を今度は我々の若い力を以って磨き上げ、尚一層その輝きを増させなければならない。

この「珠玉」を磨くのは会長一人では決して出来ない。もちろん役員達の力を合わせただけでも無理である。福岡県の神道青年一人ひとりが自らの想いを込めて磨いていかなければ、この「珠玉」は忽ちその輝きを失ってしまうだろう。

忝くも先人達は、この「珠玉」の輝きを些かも失わせる事無く、さらに輝き増させて我々の手に渡してくれた。

我々神青会員にはその「珠玉」を次代に受け継がせていかねばならない使命がある。そしてそれは義務でもあり、また同時に権利でもある。青年会の時間は有限である。いつまでもそこにいる事は出来ない。その限りある青春のひと時において、これまで六十年に亘って受け継いできた「珠玉」を磨き、さらにそれを次代へと受け継がせる…この壮大な歴史に参加できる権利を我々神青会員は皆平等に有しているのである。

なんと素晴らしい事であろうか。

我々は先人達の想いを受け継げるのである。そして我々は自らの想いを後人達に託す事が出来るのである。

限りある時間の中で、一人ひとりの想いを込めて、先人達から受け継いだこの「珠玉」を磨き上げよう。

名も顔も知らない、しかし我々が磨いた「福岡県神道青年会」という「珠玉」を受け継いでくれる幾百幾千の福岡県神道青年のために。

広報副委員長　今東 源一郎

発行所　福岡県神道青年会事務局（宗像神社）
事務局長　重村 正人
〒800-0223　北九州市小倉南区上曽根5-8-16
電話　093-473-5276
発行人　花田 武
編集人　大神 良彦
制作・印刷　門司印刷㈱